

FURE

サテライト新聞

福島大学
うつくしまふくしま未来
支援センター FURE
いわき・双葉地域支援
サテライト
発行

解説
楢葉町の土地利用

①方向性について
～大胆な土地利用

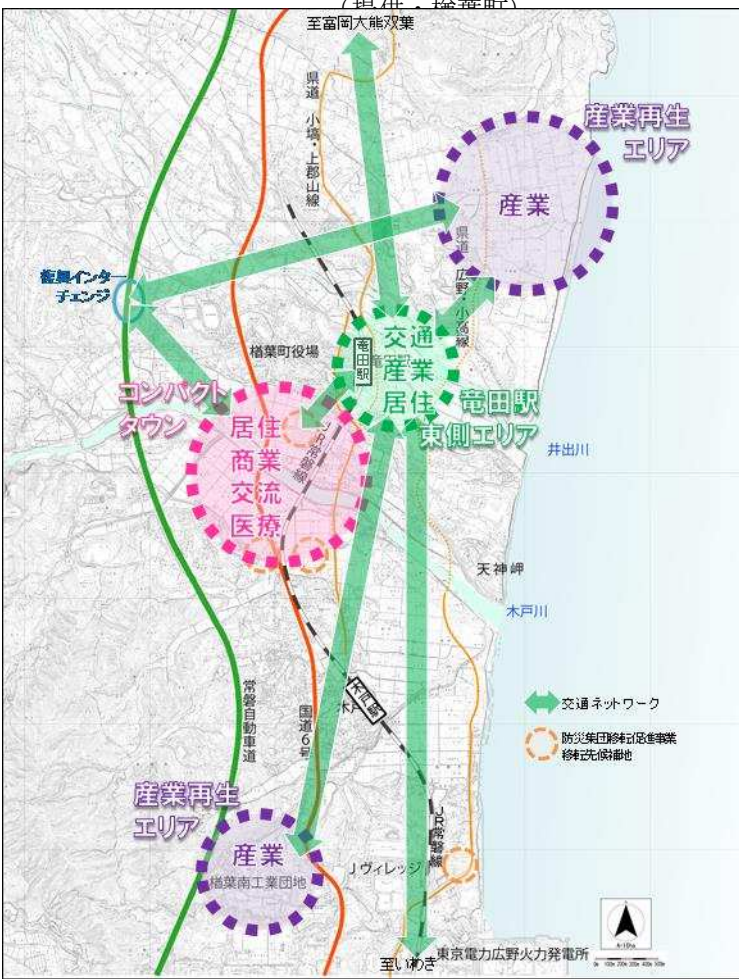
土地利用計画を定めるのは、地域の土地の有効活用を図るほか、活動の活発化・円滑化、居住性を高める、歴史と文化の保全、といった理由が挙げられる。楢葉町では、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故以前の土地利用を踏ま

来訪者など、楢葉町に集う人たちが町に活力や明るい未来を感じられるようなプランを作った。災害に伴い、町では人口減少や農地などの耕作放棄などの問題が進む一方で、居住地の移転や事業再開・企業進出による新たな土地利用ニーズといった情勢に対応するため、3つのエリアに分けて整備を推進する。そのエリアとは、①竜田駅東側エリア、②コンパクトタウン、③産業再生エリア。位置づけはそれぞれ、

土地利用計画を定めるのは、地域の土地の有効活用を図るほか、活動の活発化・円滑化、居住性を高める、歴史と文化の保全、といった理由が挙げられる。楢葉町では、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故以前の土地利用を踏ま

東日本大震災の被災自治体の多くが策定し、楢葉町でも公表されている「復興計画」。内閣府の調査によると、策定自治体のうち、9割以上がその理由について、「住民に対して復興のビジョン、時期を示すため」としているように、計画では住民が暮らしを回復させていくことに合わせ、まち自体の再生に向けたビジョンを、具体的にどのように実現するかの方法を説明している。その計画内のポイントの1つは、土地利用計画。楢葉町の復興計画でも、魅力あるまちづくりに向け、どのように土地を活用するのかプランを提示している。本紙では今後数回にわたり、その計画をひも解き、楢葉町のまちづくりを考えていく。

土地利用の方向性のイメージ



創刊のごあいさつ

みなさま、初めまして。昨年8月、楢葉町にオフィスを構えた福島大学うつくしまふくしま未来支援センター「FURE」いわき・双葉地域支援サテライトです。新年度を前に、みなさまへの情報提供をより充実させようと、FUREサテライト新聞を創刊致しました。今後、毎月1回発行致します。双葉郡内のさまざまな話題をお伝えさせていただきます。多くの皆様に楽しんでいただけるような紙面づくりを心掛けてまいります。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。※4月から相双地域支援サテライトに名称を変更します。



写真：オフィスの入るおぞらこども園

川内村で複合商業施設 待望のオープン

ショッピングセンターYO-TASHI (ようたし)

川内村下川内
 地内で整備が進
 められていた公
 設商業施設「シ
 ョッピングセン
 ターYO-TASHI
 SHI」が15日、
 待望のオープン
 を迎えた。地区
 住民にとっては
 待望の施設の開
 所、帰還へ向
 けた生活環境の
 整備に寄せられ
 る期待は大き
 い。

施設は鉄骨平
 屋建て、面積は
 約650平方メ
 ートル。村内で地産直売
 所「あれ・これ市場」を
 運営する合同会社かわう
 ち屋が管理する。

入居するのは、コンビニ
 エンスストア「ファミ
 リーマーケット」や薬局、ク
 リーニング取次店、飲食
 店の4店舗。また、住民
 が交流できるスペースも
 整備している。

このうち、ファミリー
 マートは村内で営業して



いた川内村店が、従来の
 商品に加え、生鮮食品も
 販売できるよう、店舗を
 拡大して移転した。村内
 で稼働する植物工場「R
 i M I D O R I」が作る
 野菜も店頭に並んでい
 る。営業時間は午前6時
 から午後10時まで。
 同村の震災前の生活圏

は、富岡町や大熊町だっ
 たが、両町は未だ避難指
 示が続く。村内には避難
 区域が一部残る中が、帰
 還が進められる中で、買
 い物する場が不足してい
 ることなどが課題に挙げ
 られ、商業施設の開設は
 待望だった。

YO-TASHIは国
 道399号線沿い、郵便
 局近くに位置する。問い
 合わせはかわうち屋II電
 話0240-2355
 5111まで。

サテライト駐在員の
 2人はこのほど、熊本
 県水保市を視察した。
 本欄では、その視察記
 を紹介する。

熊本県水保視察記

〈1〉穏やかな海を持つ 悲しい歴史

今年5月に公式確認
 から60年が経過する水
 保病。旧チッソ水保工
 場が排出したメチル水
 銀を原因とする公害病
 として、教科書で学ん
 だ人も多いだろう。

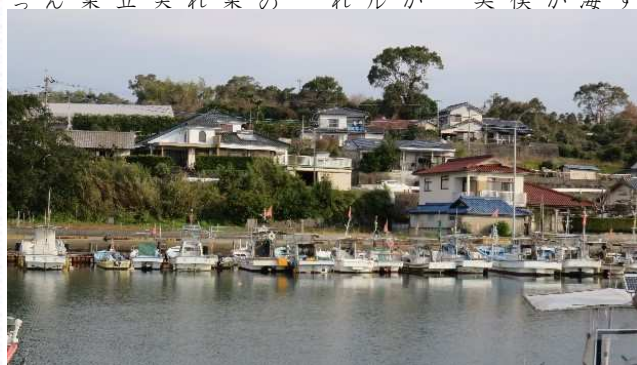
原子力災害発生後、
 水保病と原子力災害は
 類似点が指摘され、福
 島は水保に学ぶべき」
 との声も聞かれるよう
 になった。両者とも、
 豊かさを追求する中で
 起きた公害、事故であ
 り、双葉地域の復興に
 向けて参考になること
 があるだろうと、私た
 ちの業務に生かすべ
 く、現地へと足を運ん
 だのだった。

水保病は、決して過
 去のことではない。厳
 然と被害は続く水保病
 の今昔に触れること
 は、勤務員にとって大
 きな学びになった。

視察で最初に訪れた
 のは、3つの漁村。い
 ずれも、水保病患者が

た。チッソの操業後は、
 その恩恵を受ける人が
 広がった。

漁村で生計を立てる
 漁師は他地区からの移
 住者で、余所者扱いを
 されていた。元々、差
 別が存在していた。そ
 うした人たちが水保病
 を発症したとき、差別
 はさらに広がること
 に。支援が必要な患者
 は、孤立無援の状況だ
 った。海は、その悲し
 い状況も全て目撃し
 ている。



続く

サテライトは、福島大
 学が震災・原子力災害で
 被災した双葉地域の自治
 体の復興、住民の帰還な
 どの支援を行おうと、2
 012年、川内村に設置。
 昨年8月に再編し、檜葉
 町のオフィスでは4人、
 名称を変更したサテライ
 ト川内分室には1人の職
 員が勤務しています。

職員は大学と地域、行
 政をつなぐコーディネー
 ター的な役割を持ちなが
 ら、住民の帰還支援とし
 て意識調査や、双葉郡内
 自治体で復興業務に当た
 る実務者の会議のコーデ
 インネート、子どもたちの
 教育環境整備に向けた先
 進事例の調査などの業務
 に当たっています。

4月の名称変更後も、
 さらに精力的に活動致し
 ます。今後とも、どうぞ
 よろしくお願いいたしま
 す。

問い合わせ
 ◎檜葉サテライト
 電話 0240-23
 6675
 ◎川内分室
 電話 0240-25
 8995

福大サテライトって
 どんな組織？